

平成 29 年度トランスコスモス財団調査研究助成完了報告書

研究者所属機関：北海学園大学経営学部

研究者職名：教授

研究者氏名：佐藤大輔

研究タイトル：「ICT を活用した競争力人材育成に関する課題研究」

はじめに

本研究は、創造性を持つ競争力人材の育成に向けて、ICT を活用した教育・人材育成スキームを研究・開発することをもくろんで、実践的な調査研究活動を実施するものである。特に AI やナレッジマネジメントの知見も援用し、LMS 等が中心となってきた既存の方法を革新することを目指すものである。

研究の実施状況

第1フェーズ（平成29年4月～9月）においては、理論的検討を中心に進め、創造性を涵養するための教育プログラムにはどのような条件が必要なのか。および、創造性のメカニズムとはどのようなものなのかについて整理検討を行った。その結果、創造性は学習や、行為の中の省察を含む省察的实践（Schön, 1984）とのかかわりがとりわけ深いことが明らかになった。このような仮説をもとに、研究室に所属する学生（約30名）を対象に、特定の課題解決型プロジェクトに参加させ、その中で行為の中の省察をつうじてどのように創造性が発揮されるのかを調査することとした。より具体的に、研究室に所属する学生のうち希望者を抽出し、北海道広尾町との連携の下で行われる「サンタメール事業」復活プロジェクトに参加させ、地域の課題をどのように解決していくことができるのかについて調査・立案・実施を進めさせ、それを参与観察形式で調査することとした。

第二フェーズにまたがって実施されたこの観察のためのプロジェクトでは、地域の課題を抽出し、具体的な提案を創出するために複数地域の実地調査（助成金使途明細書 No.1～No.5、No.6～No.10 および No.16～No.20）を実施させ、データを収集させた。その上で収集されたデータの整理、考察、および提案の創出に取り組ませた（助成金使途明細書 No.11

～No.15)。また、一般的な二次資料の活用も併せて行わせ（助成金使途明細書 No.22～No.25）、収集された一次・二次資料は分類・整理（助成金使途明細書 No.26～No.27）の上、提案の創出のために用いられた。なお、学生らが考案した提案は、商業施設における地域の魅力発信イベントの実施で、実際に11月に札幌ファクトリー（札幌市中央区）において「サンランドがやってくる」イベントとして実施された。

研究成果の概要と課題・展望

本研究では、省察的実践（Schön, 1984）の中で創造的なアイデアが創出されるという作業仮説をもとに、学生を対象とした実証調査を参与観察形式で実施した。この仮説については実証調査の結果でもおおむね確認することができたが、さらにそれらは特にダブルループ学習とのかかわりが深いことが明らかになった。例えば、Mintzberg（1994）は当初計画された戦略から意図せざる結果（いわゆる部分的な失敗）を経て、創発的な戦略を加えることによって、実現された戦略が形成されるとしている。このような創発的戦略の考え方はダブルループ学習のメカニズムに基づいたものだということができるが、このような考え方に基づけば、当事者に計画を立てさせ、それを実施（行為）し、意図せざる失敗を見出し、即興的に代案を生み出させ、それを事後的に正当化していくことが重要だということができる。そして、このようなプロセスを当事者に進めさせるために管理者が行うべき取り組みとして、当初の計画を立てさせるための合理的な管理、およびそれを実施する中で意図せざる結果を見出し、新しいアイデアを創出させるための創造的なマネジメントの両者が必要だということが明らかになった。

本研究での取り組みをつうじて、管理者がどのような方法で学生や従業員などの対象者に創造的なアイデアを生み出させることができるのか、理論的な枠組みを設定することができた。既存の研究群では、創造性に対する研究的なアプローチ方法そのものが確立されておらず、学習や実践の観点から創造性に迫ることができる可能性を示唆した点は本研究の最も重要な成果だと考えている。

一方で、本研究では参与観察の形式で学生をつかった調査を実施したため、調査に膨大な時間と労力を割くこととなった。そのため、ICTを活用したより具体的なスキームや提案を構築するまでにはいたらなかった点は今後の課題として残されるものである。特に、ICTを活用した教育プログラムでは、ブレンデッド型のプログラムが主流となっているが、このようなプログラムの延長線上にどのように創造性を実現するような仕組みを入れ込むことができるのかは残された課題となっている。しかしながら本研究によって示された示唆は今後の研究方針の軸ともなるもので、引き続き研究を継続することとしたい。

なお、第1フェーズにおける理論的検討の中でICTやAIに関する既存研究のレビューを行ったが、この取り組みの派生として作成された論文「AIと人間の協働関係がもたらす連続的イノベーションの可能性—強化学習がマーケティングの創造性を促進する」はトランスコスモス次世代コミュニケーション論文コンテストにおいて最優秀賞を受賞した。